



2015 年度秋学期の履修者

FRONTIER

教育・研究の最前線

世界に踏み出す第一歩 理工学部「グローバルリーダーシップセミナー」

理工学部 教授 小原京子
おはらきょうこ

「途上国との関係における技術とは?」「研究者・エンジニアの倫理的・社会的責任とは?」「リーダーの資格と責任とは?」「グローバルとは?」。理工学部総合教育科目「グローバルリーダーシップセミナー」(GLS)では、毎学期1、2年生32名が集まり活発な議論を繰り広げています。

GLSは、学部導入教育における国際化教育の柱として、理工学部創立75年の前年にあたる2013年度に開講されました。専門教育に特化せず世界に通じる基本的素養、論理的思考、発信力を身につけることが目的です。週2回の授業のうち1回目は日本語による講演と質疑応答、2回目は同じテーマで英語討論を行います。昨今「グローバルリーダー育成」を謳った科目は他学部・他大学にもありますが、1テーマに3週間かけて深く取り組むこと、週2回の少人数セミナー形式授業で日本語と英語で議論すること、韓国高麗大学(夏休み)・台湾淡江大学(春休み)の学生たちと議論を行う「実地研修」が併設されていることなど、他の追随を許さない内容です。

履修した学生からは、「英語を話すことが国際化ではなく、異なる価値観をもつ相手の立場で物事を考えられることが真の国際化と知った」「答えではなく現実を知り、自分たちで解決策を考えることが多く、大学に入る前にイメージしていたような授業だった」「普段接しないテーマに触れ、議論ができた」「自らの成長を感じることもできた」「お互いに母語ではない英語で討論を行ったことは大変に有意義だった」といった声があがっています。

3年経過しての成果としては、履修した学生が交換留学(ライス大学、ダートマス大学)やダブルディグリープログラム(ECパリ、ECナント)、海外サマースクール(UCバークレー、UCアーバイン)、語学研修(東義大学)などに参加するとともに、学生スタッフとして「実地研修」の運営にも関わっており、明らかに国際経験への意欲が高まっていると感じています。

理工学部創立100年を迎える頃には、GLS既習者が世界のリーダーとして多方面で活躍していることが大いに期待されます。